

2025年12月9日

内閣府特命担当大臣（こども政策担当）
黄川田仁志様
こども家庭庁長官 渡辺由美子様

カナリア・ネットワーク全国
共同代表 青山和子
共同代表 深谷桂子

子どもの空気環境の改善を関係省庁・自治体に促すよう求める意見書

貴府庁におかれましては、日頃より子どもに関する行政にご尽力いただき、有り難く存じます。

私共は、日用品に含まれる香料や消臭成分等の化学物質による健康被害（香害）を受けている当事者を中心に、2021年に発足した団体、カナリア・ネットワーク全国と申します。（2025年12月現在、会員数約1020人）。被害実態を世に広め、被害者と支援者のネットワークを作り、被害者が置かれている様々な人権侵害の現状について解決を求めて行くことを目的としております。

空気中の化学物質による健康障害は、新築住宅等の建材、接着剤などに起因するシックハウス症候群が知られています。症状が高じると、難治性の化学物質過敏症を発症します。少量の多種類の化学物質に反応し体調不良を起こすため、通常の社会生活が営めなくなる重篤な病です。シックハウス症候群への対策として、1990年代後半から、主な原因物質に室内濃度指針値が設けられ、一定の効果が得られています。

現在は、新たな空気中の化学物質による健康障害、「香害」が問題になっています。

2010年代前半、海外製の香りの強い柔軟剤が人気を博したこともあり、香料をマイクロカプセル化する徐放技術が、日本の柔軟剤や合成洗剤に使われ始めました。この技術により香りが長続きするのですが、そのことは即ち、香料成分などの化学物質が、衣類から長時間にわたり空気中に揮発し続けることを意味します。空気には境目がないため、その場に製品の使用者が居るだけで、周囲の人々も化学物質を吸入し続けることになり、化学物質への感受性の高い人から体調不良に陥っているのです。

香害被害が高じると、シックハウス症候群と同様に化学物質過敏症を発症します。今は、化学物質過敏症状の契機の70%が「香りなどの臭気」であるとする厚労省研究班の報告もあります。

学校でのシックハウス症候群、シックスクール問題も、今やその原因は、教室内の児童生徒・教員の衣類から揮発する、香料等の化学物質が中心になっているものと考えられます。

2025年8月に、学術団体による、子どもの香害に関する実態調査の中間報告が公表されました。小中学生の約10%が香害の被害を経験したことがあり、教室内で香害を体験した児童生徒も多く、香害のせいで、不登校傾向にある子どもが約2%いるという実態が明らかになりました。

従前より、文部科学省は、「子どもの体調に合わせ、学校での個別配慮を行うように指導しているから問題はない」という姿勢です。しかし、個別配慮の実態は、化学物質が充満する教室で具合の悪くなる児童生徒を教室から別室に隔離し、一人で自習させるといった対応です。自習による勉学では習熟度に影響がありますし、クラスメートと共に語り行動するという、集団活動による学びが全くできず、教育の公平性が保たれません。インクルーシブ教育とは程遠い現実です。

そして、当該の子どもへの個別配慮を行うだけでは、香害被害が出るような、化学物質が充満した教室の空気環境はそのままに留まります。成長過程にある子どもは大人に比べて、化学物質の影響を受けやすいものです。新たな香害被害を感じる児童生徒が、次々と生まれても不思議はありません。香害が高じて、化学物質過敏症を発症してしまうと、子どもの将来の進路は、相当に狭められたものになりかねません。

こうした現状は、子どもの人権が尊重されているといえるものでしょうか。子どもたちに健康的な学習環境を整え、学びの機会を保障し、健やかな発達成長に導くのは、大人の責務です。

「こども基本法」に照らして、早急に現状が是正される必要があると考え、貴庁にご対応をお願いしたく、以下の意見を申し述べます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

記

1. こども家庭庁は、子どもが過ごす場所での無香料化等、子どもの空気環境の改善に取り組むように関係省庁、地方自治体に対して、指導・助言を行ってください。

以上

<問い合わせ先：カナリア・ネットワーク全国>

<https://canary-network.org/member/contact/>



<参考資料>

- ・カナリア・ネットワーク全国のHP

<https://canary-network.org/>



- ・『STOP ! 香害—香りに苦しんでいる人が居ます—』(ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議リーフレット)

https://kokumin-kaigi.org/wp-content/uploads/2021/03/%E9%A6%99%E5%AE%B3%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%95_web%E7%94%A8.pdf



- ・日医ニュース：健康プラザ「香料による新しい健康被害も—化学物質過敏症」

<https://www.med.or.jp/dl-med/people/plaza/508.pdf>



- ・日医ニュース：健康プラザ「化学物質過敏症」

<https://www.med.or.jp/dl-med/people/plaza/550.pdf>



- ・月刊保団連 2022年3月号「特集『香料』にひそむ健康リスク—化学物質による不調を見極めるために」

<https://hodanren.doc-net.or.jp/books/hodanren22/gekkan2203.html>



- ・加藤貴彦 (2018) 「化学物質過敏症—歴史、疫学と機序—」 日本衛生学雑誌

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjh/73/1/73_1/pdf-char/ja



- ・坂部貢（2023）「化学物質過敏症候群患者の中枢感作検証」厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）（分担）研究報告書

https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202211048A-buntan8.pdf



- ・厚生労働省研究班「科学的根拠に基づくシックハウス症候群相談マニュアル（改訂新版）」37ページ、図3.3.1、211ページ、Q11、Q12参照。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku-jouhou-11130500-Shokuhinanzenbu/0000155147.pdf>



- ・NHKニュース「“人工的な香りで体調不良”子どもへの影響めぐり調査報告」（2025.9.21.午前6時8分）

<https://news.web.nhk.or.jp/newsweb/na/na-k10014928401000>



- ・寺田良一「子どもの『香害』と環境過敏症状に関する全国調査の中間報告～『香害』と教育現場の諸問題に関する解析結果～」（2025.8.20.）

<https://nishoren.net/wp/wp-content/uploads/2025/09/a5d70bce085b7974ade1c7e4e2c22542.pdf>



- ・カナリア・ネットワーク全国で行なった「子どもの香害アンケート」結果

<https://canarynetwork.org/wp-content/uploads/2024/12%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E9%A6%99%E5%AE%B3%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%881031%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8PDF.pdf>



- ・別添記事コピー：消費者リポート No.1698「子どもの香害被害への対策を」（2025.10.20）